
平穩

中之讓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平穩

【Nコード】

N7545Y

【作者名】

中之讓

【あらすじ】

世界的な脅威が過ぎ去ったあとの風紀委員三人組の小話。
(かなり短い)

バラム港の埠頭では、とある3人組が釣りにいそしんでいた。

「か、かかったもんよ！どうするよ、どうすればいいもんよ！」

「黙！」

「引いてる、引いてるもんよ！俺は昆虫しか詳しくないもんよ・

・

「黙！」

「逃げる！逃げちゃうもんよ！」

「雷神、黙！」

筋肉隆々で短髪の色黒が、まるで小枝のような釣り竿片手に慌てている。その先では釣り糸が水を切っており飛沫が上がっている。同じくして水面に糸を垂らす二人は落ち付いており、雷神を宥めている女性は銀髪にアイパッチという独特な風貌であるが端正な顔立ちで、話し方に特徴があった。もう一人の男はシルバーのジャケットを纏い微動だにせず、金髪をオールバックにしたその穏やかな眼の奥には少しの哀愁さえ感じさせる。

雷神の諄さに呆れた風神が彼を海に突き飛ばした時、突然大きな影が彼らを覆った。

「来たようだな、風神」

「ああ」

それは風を巻き起こし大きな音を立てながら羽根を旋回させる飛行物体であり、その大きさは小さな山一つ分ほどあるうかというほどだ。そんな学生たちを乗せたガーデンは、港を通過して行った。それを羨望の眼差しで見送る3人。

大切なものは友情。それは俺達が一番よく分かっている。ならば、それが本当に正しいことだとしたら、ガーデンの奴らにも同じように接することができたなら、きっと俺達のことにも認めてくれるはず

だ・・・。

「なあ、風神。俺達も帰ろうか、本当の家に・・・」

心地よい春風が、彼の心根に水を与えていた。今までずっと土に埋もれ、一人ぼっちだった彼の本当の心の種が、芽吹こうとしていた・・・。

「冷たいもんよ、泳げないもんよ、助けてほしいもんよおゝ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7545y/>

平穩

2011年11月23日15時51分発行